

令和6年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート 概要版

	センター名	活動目標・取り組みのポイント・アピールしたい点
中央区	弁天	地域・団体・関係機関等のネットワークを構築して、身寄りのない方、地域や社会との繋がりが無い世帯等の把握や支援に取り組む。社会的孤立・孤立死・情報格差等の減少を目指して、地域訪問・イベント開催・勉強会等を通じて、終活問題・意思決定支援・成年後見制度・身元保証等の周知や啓発に努める。
	中央	複合的な課題を抱える世帯の相談が年々増加している。(8050世帯やヤングケアラー、若年性認知症など)。地域包括支援センターの機能のみでは解決できない課題もあるため、既存のネットワークのみならず他分野の支援機関ともネットワークを構築し、連携しながら支援できる体制を整える。
	千葉寺	年を重ねても、住み慣れた地域で生活が継続できるよう高齢者の健康寿命の延伸、尊厳ある生活の実現に向け、関係機関と連携する。また、孤立させない地域づくりのために、センターの機能周知を積極的に行い、地域の様々な方が相談しやすいセンター運営を目指す。
	松ヶ丘	あんしんケアセンターの周知について、高齢者だけでなくすべての世代に向け行う。家族3世代で各々が生活上の課題を抱えているなどのケースも増えてきているため、ケースが複雑化・深刻化する前の早い段階であんしんケアセンターへ相談してもらうことを目指す。
	浜野	〔活動目標〕SDGsイベントを継続開催する。〔取り組みポイント〕高齢者を含め、多世代にも共通する「フードロス、食糧支援、生活困窮等」の地域課題の解決に向け、普及啓発を行う。〔アピール点〕地域特性を活かし、高齢者の問題解決につながるよう、地域住民や多機関との連携を推進する。
花見川区	こてはし台	こてはし台地域ケア会議にて、多世代交流の拠点づくりに向けた取り組みについて話し合い、社会福祉法人オリーブの樹が運営しているコミュニティスペースを活用し、オリーブの樹、こてはし台自治会、社協地区部会、民生委員児童委員等と連携し、活動を展開することとした。センターでは、認知症カフェを運営し、当事者の希望や必要としている事を把握し支援につなげる。また、地域ケア会議を開催し地域組織等の課題把握、解決等も行う。
	花見川	疾病・家族や社会と疎遠・孤独・貧困・人付き合いが苦手(認知症や精神疾患)など、経済的・社会的な要因が絡み合った複合的な課題を抱えた相談が増加している。また、圏域内で地域性の違いがあるため、関係機関を交えながら「ひとりにしない」を目的とした地域の集まりの場などの拠点づくり、および、地域の関係者・サービス事業所と連携した街づくりに力を入れていきたい。
	さつきが丘	当センターは4人の包括3職種が配置されているが、主任介護専門員が2名おり地域の介護支援専門員に対する後方支援に力を入れている。介護支援専門員の人材不足が課題となっている中、介護支援専門員業務の魅力の周知と介護支援専門員同士で気軽に相談できる関係になれるよう、人材確保のための橋渡し役となる。
	にれの木台	あんしんケアセンターの周知活動を継続して行う。複合的な相談は、包括3職種で情報共有し、高齢障害支援課や医療、介護、福祉などの関係機関と連携し、問題解決に向け対応する。地域の高齢者が、健康維持や増進について自ら行動できるよう相談時やラジオ体操、健康教室などを通してセルフマネジメントの重要性を伝える。
	花園	利用者の生活状況全般を理解し、包括3職種の専門性による課題の把握に努め、行政や関係機関と連携しながら支援を行う。地域の関係者や生活支援コーディネーターと連携しながら、住み慣れた地域で安心して生活できるように支援を行う。
	幕張	極度に状態が悪化し、緊急を要する状態になってからの相談が増加傾向にある。そのため介護認定結果前に暫定利用となり支給限度額超過による実費払いが発生している。利用料負担の不安から、必要なサービス利用を控えることが無いように早期相談と健康維持の啓蒙に努める。
稲毛区	山王	圏域の特性を踏まえながら「地域資源の充実を図る」を活動目標とする。山王町を中心とした地区は、地域課題の把握と解決を目指す。小中台町を中心とした地区は、地域の方が集まりやすい公的な場所が少ないため、生活支援コーディネーターと連携して地域資源の発掘を目指し活動する。
	園生	「人生100年時代を笑って楽しく過ごすことができる地域作り」を目標とする。人が生きていくためには様々な方が支えて成り立っているものとする。その為、介護分野には直接関係のない方や団体とも積極的に交流し、どのような方でも「ここで生活できて良かった」と思える地域を目指す。
	天台	圏域内の各地域における課題に対してきめ細かく対応することが出来るよう、圏域を萩台・天台・千草台・作草部と4つに分け、それぞれの地域で年に1回以上の地域ケア会議を開催する。地域ケア会議を通じて、包括3職種と生活支援コーディネーターが協力して地域住民に働きかけ、各地域の課題解決を図る。
	小仲台	2025年を目前に個々の住民が自立した生活が送れるように自ら具体的な課題を見出し、セルフマネジメントできるように支援する。そして、地域の災害対策も視野に入れながら、地域の医療、介護、民生委員などの支援者とも連携し、圏域全体で自助、互助への意識をさらに高めていく。
	稲毛	コロナ禍前の地域活動が再開できるよう各機関との連携を強化し、多くの方に介護予防の必要性を実感してもらい、住民同士の繋がりを持ってもらえるよう普及啓発活動に取り組んでいく。また多世代交流が持てるよう地域のイベントに企画から参加することで、地域資源の情報を把握すると共に、地域資源が地域の中で活用されるよう支援する。
若葉区	みつわ台	(計画)住み慣れた地域で暮らすことが出来る地域づくりを構築する。 【具体策】①地域ケア会議を開催し、地域性及び地域課題を把握する。②民生委員や支えあいの会の定例会に参加しミニ講話等を開催する。介護予防や権利擁護、介護保険の適正利用について周知を行う。③圏域の企業や商店に協力を得てパンフレットを配布することであんしんケアセンターの周知活動を実施する。
	都賀	住民一人ひとりが自主的に介護予防の意識を持ち、高齢者が安心して生活ができるように、介護予防講座や地域の活動団体への支援を行う。さらに生活支援コーディネーターと協働しインフォーマルサービスの定着と、地域住民や関係団体とのネットワーク構築を図る。
	桜木	専門職の知識や技能を生かし、チームアプローチで高齢者を支え包括的に支援する。また相談者の気持ちに寄り添い、迅速で丁寧な対応を実践する。さらに業務が円滑にできるよう、日頃より関係機関との連携、ネットワークの充実を図るため、地域に積極的に向かい関係の強化を図る。
	千城台	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多様化、複雑化する様々なニーズに対して包括3職種が連携し、課題解決に向けた適切な支援を行う。また、高齢者の自立支援に向けて、関係機関との連携強化により、地域課題の共有や検討、地域課題解決に向けた地域資源の創出に取り組む。
	大宮台	高齢化率が46%を超える圏域である。総合相談件数は3年前の1.4倍となり、今後も増加することが予測される。そのため包括3職種で緊急性を考慮しながら迅速に対応できるように協働して対応する。また地域住民のニーズに応じて介護予防の出張講座を実施したり、幅広い世代に認知症講座を実施し地域の見守り体制を強化する。
緑区	鎌取	・積極的なアウトリーチにより個々の高齢者が抱える潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者の抱える複合的な課題について他職種連携や他職種協働により早期解決に努める。 ・地域ケア会議の開催を通じ、地域課題の把握や政策提言を行う。
	誉田	・身近で気軽に相談ができるよう、電話連絡後、迅速に訪問し、相談対応をする。 ・多問題家族が増加している為、高齢者のみならず、家族全体に視点を向けて、他機関とスムーズな連携を図る。 ・介護予防に資する通いの場に参加しやすいよう資料を作成し、周知するとともに参加を促す。
	土気	高齢者やその家族が抱える複雑多様化した生活課題に対し、関係機関と協働し、制度横断的な対応を取りながら、家族全体を支援する体制づくりに取り組む。対応事例の積み重ねから抽出された地域課題について、地域ケア会議で関係機関や地域の関係者と共有し、課題への対応策を共に検討する。
美浜区	真砂	・要支援のケアプランチェックリストを作成し、ケアマネジャーへの助言・指導を平準化する。また民間サービスの活用を促す。 ・医科・歯科未受診、介護認定未申請のハイリスク高齢者へのアプローチを健康課と共に行う。 ・真砂地区の認知症カフェ立上げ支援および後方支援を行う。
	磯辺	・高齢者自らが、介護予防に取り組めるよう介護予防普及啓発及び住民活動の支援を行う。 ・介護予防手帳を活用し、体力測定やチェックリストをする。高齢者自身が自分の状況を確認できるように努める。
	高洲	・孤立化する高齢者の増加に対して、地域資源やコミュニティへつなげる予防活動や成年後見制度の普及に努め、課題解決のために地域の関係機関と連携を図る。 ・介護認定後のサービス利用の調整に時間を費やしていることに対して、地域資源の発掘、普及啓発に努め地域の特色を活かした支援を目指す。
	幸町	・個別課題や地域課題の解決のため、多種多様な専門職や関係機関と連携し課題解決に取り組む。 ・地域の発展のため、住民や関係機関と日頃から連携し、多世代交流や地域活動を促進する。